

平成 25 年度卒業式学長式辞（26 年 3 月 18 日）

今年の冬は、記録的な大雪が降るなど、例年になく厳しい寒さが続きましたが、ようやく春も間近となり、明るい陽光のもと、今年も卒業生の皆さんが本学から巣立っていくときがめぐってきました。

本日ここに、駿河台大学第 24 回学位記・卒業証書授与式に当たり、学士課程 5 学部を卒業される 976 名の皆さん、修士課程 3 研究科、専門職学位課程 1 研究科を修了される 40 名の皆さんに、心よりお祝いを申し上げます。

また、本日は、多数のご父母の皆様にもご参列いただいています。ご父母の皆様には、ご子息様ご息女様のご卒業、誠におめでとうございます。また、本学に対するこれまでのご支援に心より感謝いたしますとともに、今後ともよろしくお願い申し上げます。さらに、本日は、多くのご来賓の方々にご参列をいただいております。ご多用の中ご臨席くださり、篤く御礼申し上げます。

振り返りますと、卒業生の皆さんが、2011 年 3 月 11 日、我が国に未曾有の災害をもたらした東日本大震災に遭遇したのは、1 年生の学年末を迎えていた時期でした。帰省されていて大地震に遭われた人もいるでしょうし、この飯能で大地震に遭われた人もいるでしょう。また、自分のご家族、親戚、友人達が大災害に遭われた人もいるでしょう。そして、皆さんの多くの人達は、その後東北地方でボランティア活動に取り組みられました。大震災から 3 年が経過しましたが、東北地方は未だ大震災のもたらした大災害から回復せず、復興の遅れが指摘されています。私たちは、この大震災を決して忘れることなく、大災害に遭われた人達、地域に心を寄せていかなければならないと思います。

他方、私たちは、東日本大震災のもたらした未曾有の災害により、自然と比べた私達人間がいかに小さな存在なのかということを、痛切に思い知らされました。その結果、日本社会全体に消極的なあきらめの後ろ向きの雰囲気生まれ、多くの若い人たちにも、自分の将来に対する漠然とした不安を与えてきました。今ようやく我が国経済にも回復の傾向が見られ、社会全体に活気が戻ってきたようです。さらに、現代社会はグローバル化が急激に進む中で、大きな変動を感じさせる時代に入っています。日本を変革して、我が国を再び明るい希望と活気に満ちた国にしていく役割は、皆さん達若い人達に期待されています。

今皆さんは、大学を卒業して、社会に新たな第一歩を踏み出そうとしています。皆さんは、今、自分の将来の夢に向かって進んでいこうという前向きな希望と、社会への門口に立って、漠然とした不安の両方を感じていることと思います。しかし、皆さんの将

来は、大きな可能性に満ちています。10 年、20 年先の皆さんがどうなっているかを決めるのは、これからの皆さんの努力次第です。

本学を巣立って行かれる皆さんに、私は是非忘れないでほしいと思うことがあります。それは、人は一生学び続けなければならないということです。これは別段大学での勉強と同じように学び続けよと言っているわけではありません。社会には、学び続けている人がたくさんいます。皆さんもその一人であってほしいのです。昨年 10 月に、OECD（経済協力開発機構）から、国際成人力調査において、日本が大健闘を示したと公表されました。とくに、読解力と数的思考力で他の国を圧倒したと報じられました。この調査は、単に知識の有無を問うテストではなく、日常生活の様々な場面での基本的なスキルをテストするのが目的です。この高い評価は、我が国の義務教育の充実と共に、若手を育て上げる日本企業の育成システムの成果であると見られています。

皆さんは本大学において専門教育を受けてこられました。しかし、今日の高度化し、産業構造が大きく変化している現代社会においては、どのような領域でも、大学の専門教育で得られた知識だけでは、職場で求められる知識、能力を満たせません。そこで、大学における専門教育は、専門の基礎となる基本的知識や考え方を学生に身に付けさせることに重点を置くことになります。したがって、皆さんの将来を決めるうえで問題になるのは、大学を出てからの学びなのです。前述の OECD の調査は、皆さんの先輩達が就職後もいかに学び続けているかを示しています。反対に、皆さんが、仮に、大学での学びの成果に自信がなくても、職業に就いてから学ぶことで、十分にそれを補えるということです。

本学の教育は、皆さんが自らの将来を切り開いていける基礎的な力を育成することを目指してきました。本学での学びを基盤として、自分の夢を実現するために、大きく羽ばたいてください。どうか明るく前向きな気持ちを常に忘れずに、これから社会で出会う多くの人達から、いろいろなことを学び、自分に与えられた仕事を大切にしていってください。そして、自分自身と家族とを大切に、精一杯自分らしい人生を生きていくことを、心より願っています。

最後に改めて、ご卒業のお祝いを申し上げますと共に、皆さんの益々のご健勝とご活躍を心からお祈りして、式辞に代えさせていただきます。

平成 26 年 3 月 18 日

駿河台大学 学長

川村 正幸